

埼玉大学経済学部同窓会

経和会会報

第7号

2004年5月10日発行

発行 埼玉大学経済学部同窓会
経和会会長 伊藤 正昭
編集 常務理事 中村 直行
さいたま市桜区下大久保255番地
TEL 048 858 3281



同窓会連合会の成立と
国立大学法人の発足について
会長 伊藤正昭

平成十三年七月の経和会総会において、全学部同窓会の連合会の設立が決議されて以来、大学当局の協力を得て、平成十四年十二月に同窓会連合会の設立準備委員会を設立し、規約の起草、初代役員を選任手続きなどを進めて来ましたが、学部同窓会さえ未組織であった理学部、工学部も、これを機会に組織され、昨年十月二十九日の設立準備委員会の最終委員会において同窓会連合会規約の草案が確定し、十二月六日の設立総会において原案どおり役員を選任が承認され、ここに正式に同窓会連合会が発足しました。

同窓会連合会の目的は、卒業生相互の親睦にとどまらず、全学的情報を共有し、大学の発展のために人的物的な支援を行うところにある、そのための事業として学生の就職支援大学の後援など、理事会において立案し、総会において承認された事業を行います。

殊に、本年四月一日に国立大学法人が発足し、私学と同様、同窓会の協力がなければ大学は満足な活動ができないこととなるのは明らかであり、同窓会連合会の役割重要になると考えられます。同窓会連合会は、各学部同窓会から選出された各七名の代議員による代議員総会を最高議決機関とし、代議員の中から選出された各学部二名ずつの理事により構成される理事会が日常会務を執行することになります。

そして同窓会連合会の代表として会長一名、会長を補佐する副会長三名のほか、会計並びに会務の執行を監査する監事二名を置くこととしました。なお、これらの役員は任期はいつでも二年です。

会計年度は毎年四月一日から翌年三月三十一日の一期とし、会計年度終了後二ヶ月以内代議員総会を開催し決算報告と予算の承認、事業計画の決定並びに役員の変更を行います。こうして、規約が確定し、初代の役員として、会長私・伊藤正昭、副会長として内藤勝久氏（経和会副会長）のほか理学部及び教養学部同窓会から各一名、理事は各学部同窓会から二名（経和会からは私のほか中野恵副会長）合計十名、監事は経和会監事・大橋秀夫氏のほか、理学部から一名が選任されました。

から推薦できるようにすること、大学図書館の利用について、卒業生も学内利用者と同一のサービスを受けられるよう、大学当局に申し入れることなどが決まりました。同窓会連合会の事務所としては、大学当局から事務室と家具を借り受け、PCを備え、パートの事務員に週一日か二日程度勤務してもらう予定です。当面は経費節約のため、牧副会長（理学部出身）に事務を処理して頂くことにしました。

以上、この次第で、本年一月中旬に第一回理事会を開催し、予算原案、事業計画を決定することになっておりましたが、各学部同窓会が提出する年会費の額を巡って議論が沸騰し、二月二十八日の第二回理事会においてようやく、各学部から年会費として十万円を拠出し、不足分については経和会が立て替えることで決着し初年度事業として各学部同窓会から各二十名を推薦して人材バンクを作り大学当局を初め、各方面からの人材派遣の要請があったときに、その中から推薦できるようにすること、

平成16年度・経和会総会のご案内

会総会において経和会会長を辞任させて頂きたいと存じますが、引き続き大学と密接な関係を保ち、皆様にご協力とご支援により経和会が強固な組織として発展し今日に至りましたことに深甚なる謝意を表しますと共に、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



経済学部新講義棟

一日時

平成16年7月10日(土)

総会・講演会 13時(受付12時30分)
懇親会 15時30分~17時30分

二 場所

埼玉大学大久保キャンパス

さいたま市桜区下大久保255
TEL048(858)3281

三 講演

『医療情報を有効に活用しましょう』

NPO法人・救命促進情報センター
理事長 中村 直行
アドバイザー 医師 平尾 良雄

四 会費

5,000円
(経済学部学生は無料)

五 交通

JR京浜東北線「北浦和駅」またはJR埼京線「南与野駅」下車

六 出欠連絡

バス埼玉大学行
6月20日まで(同封ハガキにて)

法人化後の埼玉大学

埼玉大学長

田 隅 三 生



4月1日に埼玉大学に就任した田隅三生と申します。今後、経和会には何かとお世話になることが多いと思いますが、その節にはよろしくお願致します。

会員の皆さんは既にご存知のことと思いますが、国立大学は全て、4月1日から法人化されました。大学の基本的な活動は教育と研究であり、法人になっても、これが変わることはありません。しかし、大学の運営方式は変わりました。これについて簡単に説明します。

1. 国立大学法人法に基づく
埼玉大学の運営組織

法人化後の国立大学の運営は、国立大学法人法の規定に基づき、学長と数人の理事によって行われます。理事の数は、国立大学法人法の付則で定められていて、埼玉大学では4人です。津田俊信氏（前教育学部長、総務財務担当）、原田正躬氏（前工学部評議員、研究・国際協力担当）、貝山道博氏（元経済学部長、教学・学生担当）の3人が常勤理事として活動を開始しています。このほかに、前橋市立前橋工科大学長の松島巖氏が非常勤理事（評価担当）に就任しました。また、常勤監事として木内徳治氏（前総務省関東管区行政評価局長、業務全般の監査担当）、非常勤監事として武田啓一氏（日立化成工業株式会社執行役員常務取締役、財務・会計監査担当）が就任しました。

審議機関としては、従来の評議会に相当する教育研究評議会（埼玉大学の場合、学長、理事、学部長、各学部1人の評議員、計15人で構成）のほかに、新たに経営協議会が設けられ、大学の「経営」に関する事項を審議します。埼玉大学の経営協議会は、学長、理事及び5人の外部委員で構成されています。外部委員には、都筑信氏（埼玉県副知事）、増野武夫氏（埼玉経済同友会代表幹事）、井上頼直氏（理化学研究所理事）、平石次郎氏（前独立行政法人産業技術総合研究所副理事長、元通産省工業技術院長）、伊藤正昭氏（弁護士、経和会会長兼本学同窓会連合会会長）の5人が就任して頂きました。以上が国立大学法人法に基づく埼玉大学の運営組織です。従来からある学部教授会などは学校教育法に定められているもので、今後変わりません。

2. 埼玉大学独自の
教育研究組織とその活動

学内では、教育をこれまで以上に充実したものにすることを目的として、全学教育・学生支援機構を新たに設け、活動を開始しました。また、研究活動を強化するため、これまでの21世紀総合研究機構を改組することになり、そのなかに知財関係を担当する部門も設置する予定です。更に、教育・研究活動など業務全般に関する評価方針等を定めるため、新たに教育研究等評価センターを設けました。

全学教育・学生支援機構には、いくつかの新しい組織を設けることになっていて、そのなかには実用的な英語の能力を付けさせるための英語教育開発センターがあります。これは、学生に、国際的な活動を行うことができるだけの英語力を習得させることを目的としたもので、具体的には、英語を読むだけでなく、聞いたり、話したりする能力を高める教育を積極的に行うというものです。以前から、このような英語教育が求められていたのですが、今回ようやくそれを実現する方策が固まりつつあります。

21世紀総合研究機構は、外部資金の導入を伴う研究活動に重点を置くこととなります。あとでも触れますが、外部資金の導入は、これからの本学にとって極めて重要な意味を持っています。いろいろな形で外部資金を獲得するための方策を立案し、

3. その他の重要課題

法人化は大学の自由度を高めるものなので、それ自体は本学に困難をもたらすものではありません。しかし、それに付随して、文部科学省から支給される運営費交付金（大まかに言って、従来の校費に相当）が漸減することが予想されていることは深刻な問題になっています。本学の財務状況に関しては、改めて、詳しくご説明する機会を得たいと思っていますが、当面の問題は人件費の抑制です。平成16年度予算に占める人件費の割合は約80%です。どうすれば、これを近い将来において減らすことができるかが、本学にとって大きな問題になっています。

残された紙数が少なくなりました。過去2年間に埼玉大学にとって重要な問題であった、群馬大学との統合問題についても触れておきます。この問題と法人化に伴うさまざまな問題を同時に取り扱うことは実際上不可能なので、私は、統合問題を棚上げすることを主張してきました。この考えに変わりはありませんが、群馬大学とは、時間をかけて、できるだけ良い協力関係を築きたいと考えています。これについても、いずれまた、ご説明したいと思っています。最後にになりましたが、経和会の発展と会員の皆さんのご健康とご活躍を祈ります。

（平成16年4月11日記）

中野恵永さんのご逝去を悼む

会長 伊藤正昭

今年の一月九日朝、中野さんのお嬢さんからの電話で中野さんが亡くなられたことを知らされ、私は耳を疑いました。つい先月の同窓会連合会の設立総会の司会を元気に務められ、経和会クラブでも元気で歓談しておられた中野さんがまさか突然亡くなられるとは。

新生経和会の発足以来、内藤副会長とともに経和会の発展に寄与してこられ、また埼玉大学就職相談員として、後進の就職指導をしてこられた中野さんは、昨年胃癌の手術をされましたが、驚異的な回復で、食事は一度に沢山食べられ、十二月の経和会クラブではウイスキーの水割りといつものようにこやかに飲んでおられ、少しもやづれた様子は感じられませんでした。そして、今年の七月からは私に代

わって経和会の会長に就任することをお約束して下さり、これからの経和会の運営について構想を練っておられるようでした。副会長としての中野さんと内藤さんはまことに名コンビで、私を含めてお互いに阿吽の呼吸で、多くの言葉を要せずとも理解し合える間柄であり、お陰で円滑な会の運営が続けられたのでした。

ともすれば過激な発言で周囲から反発を招きかねない私をフォローしながら、私の言いたいことを上手に援護して下さいました中野さんの、あの温厚なお人柄は誰からも愛され信頼されていたに違いありません。しかも、体格も良く、ハンサムで美声の持ち主だった中野さんはミュージカルのコーラスにも出演されたばかりでなく、経和会クラブでも内藤さんと息のあった二重唱を披露されたこともありました。

平成四年に故田中一盛経済学部長から同窓会の活性化を求められたのがきっかけで、経和会の幹事会が開催され、まず名簿を作成することになった。私は名簿発行委員長を仰せつかったが、中野さんは終始大所高所からご支援くださった。その後の総会で二人は副会長を拝命した。会長と三人で飲んで経和会の夢を語った。役員会の二次会には二人の「知床旅情」が始まった。中野さんはバス、私はテニールでハイモニーは抜群に良かった。

会員名簿の完成を機に経和会は元氣を取り戻した。田中経済学部長の後任となった奥山教授は国立大学最年少の学部長で学部の活性化に注力され、また兵藤教授が経済学部初の学長に選任されたので、経済学部は規模は小さいながらも大学でもっとも勢いのある学部となった。あるとき学生部から経済学部の事務長にOBの就職担当を求められ、中野副会長と二人で担当することになった。中野さんは人脈も広く採用経験も豊富で、お世話になった学生も多い。

経和会の広報誌「経和会会報」は創刊号から編集長を務め、またホームページを立ち上げるなど会のインフラ整備に精力的に取り組みされた。毎年五月の連休は紙面作りで忙殺されておられたが、ゴルフ、海外旅行、コーラスに連歌と趣味は多彩で充実した人生を送っていただいた。告別式の弔辞を奉読した会社同期の方が「君は我々の誇りであった」というくだりにそのお人柄のすべてが語られていた。コーラスクラブの「はるかなる友へ」を悲しく聞き、最後のお別れに「一輪の寒菊を手向けた。もう二人で知床旅情を歌えないか」と思っていると涙がこみ上げてきた。

やがてご実弟の心に染みる会葬御礼のご挨拶があり、沢山のの方々に見送られて霊柩車が走り出した。私は深く頭を垂れながら、経和会や同窓会連合会に寄せた中野さんの母校愛を思い、ご冥福をお祈りした。

そのうえ、古典落語にも精通しておられ、落語好きの私とは、よく冗談を言い合うなど、ユーモアを解する明るさで豊かな人間関係を築いてこられ、敵を作ることのない希有な方でもありました。このように、非の打ち所のない人格を失ったことは、経和会にとつてのみならず、社会全体としても大きな損失であり、慎んでも余りある深い悲しみを覚えます。私も胃腸の予後を心配することはありませんが、まさか心筋梗塞で急逝されたことがあつたとは思ひも掛けないことでした。社会での幾多のご業績もさることながら、経和会会報の編集を初め、多くの貴重な成果は今後の経和会の礎となるものであります。まことに掛け替えのない方を失った悲しみを言葉に言い表すことができません。

今後は、中野さんのご遺志を帯じて中野さんの期待にこたえられる経和会を築いて参ることが唯一の報恩の道であると思えます。中野さん、もつと一緒になんか仕事をしたかったのに本当に残念です。詠馨院楽悦恵徳居士のご冥福を心からお祈り申し上げます。 合掌

中野副会長は、経和会会報の編集長を務め、またホームページを立ち上げるなど会のインフラ整備に精力的に取り組みされた。毎年五月の連休は紙面作りで忙殺されておられたが、ゴルフ、海外旅行、コーラスに連歌と趣味は多彩で充実した人生を送っていただいた。告別式の弔辞を奉読した会社同期の方が「君は我々の誇りであった」というくだりにそのお人柄のすべてが語られていた。コーラスクラブの「はるかなる友へ」を悲しく聞き、最後のお別れに「一輪の寒菊を手向けた。もう二人で知床旅情を歌えないか」と思っていると涙がこみ上げてきた。

就職相談を受ける 故・中野副会長



中野恵永さん もう二人で知床旅情を歌えませんか

経和会副会長 内藤勝久

大学から電話で中野さんが入院されたので、午後1時の就職相談のピンチヒッターをお願しいし、電話で中野さんと二人で知床旅情を歌えませんか。役員会の二次会には二人の「知床旅情」が始まった。中野さんはバス、私はテニールでハイモニーは抜群に良かった。

会員名簿の完成を機に経和会は元氣を取り戻した。田中経済学部長の後任となった奥山教授は国立大学最年少の学部長で学部の活性化に注力され、また兵藤教授が経済学部初の学長に選任されたので、経済学部は規模は小さいながらも大学でもっとも勢いのある学部となった。あるとき学生部から経済学部の事務長にOBの就職担当を求められ、中野副会長と二人で担当することになった。中野さんは人脈も広く採用経験も豊富で、お世話になった学生も多い。

経和会の広報誌「経和会会報」は創刊号から編集長を務め、またホームページを立ち上げるなど会のインフラ整備に精力的に取り組みされた。毎年五月の連休は紙面作りで忙殺されておられたが、ゴルフ、海外旅行、コーラスに連歌と趣味は多彩で充実した人生を送っていただいた。告別式の弔辞を奉読した会社同期の方が「君は我々の誇りであった」というくだりにそのお人柄のすべてが語られていた。コーラスクラブの「はるかなる友へ」を悲しく聞き、最後のお別れに「一輪の寒菊を手向けた。もう二人で知床旅情を歌えないか」と思っていると涙がこみ上げてきた。

やがてご実弟の心に染みる会葬御礼のご挨拶があり、沢山のの方々に見送られて霊柩車が走り出した。私は深く頭を垂れながら、経和会や同窓会連合会に寄せた中野さんの母校愛を思い、ご冥福をお祈りした。

経和会事業報告（平成15年度）

平成15年

- 4月21日 埼玉大学 同窓会連合会設立準備委員会
委員長・副委員長打ち合せ（会長出席）
- 5月28日 埼玉大学 同窓会連合会設立準備委員会
（会長及び両副会長出席）
- 6月18日 経和会クラブ「すとーん」の開設
毎月第3水曜日18時30分～20時30分
（銀座6丁目3 18 TEL03 3571 1543）
- 6月26日 経和会 会報第6号発行
- 7月12日 経和会理事会「経済学部会議室」（会長他15名出席）
経和会 平成15年度総会及び懇親会
（講演 経済学部後藤教授 創造的マインドで都市を再生する）
- 10月28日 経済学部 インターンシップ報告会（会長、内藤副会長出席）
- 10月29日 埼玉大学 同窓会連合会設立準備委員会（会長、両副会長出席）
- 12月6日 埼玉大学 同窓会連合会設立総会（会長、中野副会長出席）

平成16年

- 1月26日 埼玉大学 同窓会連合会理事会（会長、内藤副会長出席）
経和会理事会「うすけばー」神田店（会長他14名出席）
- 2月28日 埼玉大学 同窓会連合会理事会（会長、内藤副会長出席）
- 3月17日 兵藤学長送別懇談会 銀座「すとーん」（会長他11名出席）
- 3月18日 経和会常務理事会
銀座「ニュートウキョウ」（会長他6名出席）
- 3月25日 埼玉大学卒業式・経済学部卒業パーティー
（会長、内藤副会長、河野理事出席）

中野副会長様の 思い出

小西 青

経和会のサイトリニューアルの依頼を受けたのは私が入社したその年、二〇〇一年の秋のことでした。貝山学部長、並河助教授、中野副会長、内藤副会長、北村理事、中野副会長と内容が話し合われ、実際の作成を私が承ることになりました。中野様には、作成中は主に原稿集めと同窓会事務局との調整にご尽力いただきました。各方面からの原稿集めや、経験不足な私の幾度ものご質問に対する丁寧な対応等のご苦勞に、感謝いたしております。住所変更等、同窓生の方が手軽に同窓会へ連絡できるページを「掲示板には名前だけでなく年次等の細かい情報を書き込めるような、独自のデザインに、大学のアカウントだと、掲示板での自由な書き込みができないがどうすべきか」など、具体的なご要望もあり、「ユーザ」が自分で掲示板作成もできる外部のプロバイダーを使用し、またサイトのデザインは、大学と経済学部のサイトに合わせて紺を基調にまとめ、URLは覚えやすいように「Kewakai.com」のドメインを取得しました。公

開に辿り着くことができませんでした。サイトに運営で大変なのは、作成以上に、それをいかに続けるかという事です。アクセスするユーザがいて初めて、インターネットでサイトを開設する意味を持ちます。中野様ご自身「これからどんどん充実させたい」と仰られていたように、まだまだ深められる点や可能性があまりあります。たとえば、現在大学の公式

会費（終身）納入についてのお願い

会長 伊藤 正昭

経和会では、財政基盤となる終身会費二万円を、平成八年度入学者より入学時に納めていただいております。

会費は、会報の発行（年一回）、名簿の印刷、経済学部への様々な支援等、会運営資金として有効に活用しております。

しかし、経和会は発足して日も浅く、新たな事業を展開するためには、まだまだ財政的に弱体であることは言をまたないところであ

サイトにへのリンクのみの就職情報のページも、同窓生と現役生の情報交換や相談室を開くなどの形にしたいければよいと思います。このサイトを発信地として同窓生の方々の交流の輪がより一層広げられることを望んでおります。最後に申し上げますが、中野様のご冥福を心よりお祈りいたします。有難うございました。

ります。

つきましては、会費未納の方におかれては、趣旨をご理解いただき、よろしくご協力方お願いいたします。

なお、会費の管理については万全を期しておりますが、行き違いにより、万一納入済の方に納付用紙が同封されておりましたら、悪しからずご了承下さい。

事務局 埼玉大学経済学部内
電話 0488583281

わが青春の蒼玄寮

昭和38年卒 栗原 毅

昭和三十四年四月に新入生として入寮した。今年で丸四十五年前のことである。此度、寮生活の思い出に關する寄稿依頼があったので、希薄になった記憶を蘇らせつつ、紙面の許す限り書き綴ることにした。

新入生歓迎コンパ

三人の先輩（教育学部）の居る部屋に独文専攻の小林武雄君と私が入室した。先輩は皆秩父の出身者で明るく親切な人達であった。入寮後何日かして部屋の歓迎コンパが行われた。家庭教師のアルバイトが終り、帰寮する夜九時過ぎから酒盛りが始まる。二級酒とトリスの丸ビン、肴は鯛の焼いたもの、ピーナッツ、煎餅、沢庵等であった。沢庵は、糠のついたまま買求めてきて、洗面器で洗った。後で聞いた話だが、その洗面器はパンツやシャツを洗うのに使用しているとのことだった。何とも後味の悪い思い出が残ったものである。



蒼玄寮でのコンパ（中央筆者）昭和36年



寮祭最終日（文理 校庭でのファイアーストーム）昭和34年

も寮生活の原点のように感じている。いざ汲まんなかな花影に 緑の美酒を夜もすがら

歌いながらいつしか深い眠りに就いた。

寮生活あれこれ

一部屋十五畳に五人の合部屋だった。一人三畳の居住空間で、押入の中に小さい机を入れて勉強に使い、プライベートな場所を確保する者も居た。木造のため、火の気は厳禁であった。古い建物故隙間風が入り、冬の間部屋は耐え難い程寒かった。電熱器で暖を取る不届者が時々いたが、監査委員に見つかると没収の上罰則が適用された。

寮の運営は学寮内規に基づいて寮生の自治とされ、規約は寮生が決め、学生部長の承認を得ることになっていた。入寮二年目に監査委員に任命され、寮生には煙たい存在となった。ある時、先輩の部屋に抜き打ちで監査に入ると、電熱器を使っているのを発見した。規約言々と話しつつ没収しようとしたが、先輩の一人にウインクをされ、没収できずに不使用の確約をもらって見過したのを覚えており、今でも良心の呵責を感じている。このような私も後年銀行員となり、一時期、検査部に在席して不正の摘発検査を厳正に行うことになったのだが、人間なんて所詮好い加減なものだと苦笑を禁じ得ない。

食事も多い。一日三食で七十円であったが、安部闘争後一日百円に値上りした。確かに安かったと思う。肉・魚・野菜・ご飯と栄養を考えてよくやってくれた。但し、肉は鯨が多く、飯は三分から五分程度まで入っていた。それでも夕食の旨い時は食券を取りに行つてはツヴァイ、ドライとよく食べた。近年、鯨が珍重されているが、寮で嫌と言う程食べたせいか、少しも食べたいとは思わない。

寮生の授業への出席は通学生と比べあまり良くはなかった。必要な時は寮生の誰かに講義ノートを借りられるという安易な気持ちで何となくお互い頼り過ぎたためであったのだらう。

こんな寮生にも殆ど欠席しない授業があった。秦教授の西洋経済史である。眠気を催す五・六時限にも拘らず、何故か居眠りをする者はいなかった。話しの内容は特に面白いものではなかったが、淡々と話す教授の講義は不思議な魅力があった。もともと、今頭に残っているのはヘムトディーンストの話くらいで、教授は「意味はわかりませんが」とさりと云っただけであった。

期末試験その他の思い出

平素授業への出席率があまり良くない我々寮生ではあったが、試験期には深い友情(?)に基づく協力体制を敷き、見事に試験を突破することができた。一番の思い出は二年生時の必須科目「独語講義」の試験であった。英語ならともかく、独語の十五頁二十頁を、講義に欠席して一人で通読するのは負担が大きかった。そこで、受講した者を講師に仕立て二晩くらいかけて五・六人の仲間と和訳と注意すべき点を説明させた。十一時を過ぎると空腹になる。ある者は飯盒で米を炊き、魚を焼き、胡瓜の塩揉を作った。講師を勤める者は、全員から形式的尊敬を受け、大盛の夜食が振る舞われた。深夜に及ぶ俄か勉強の甲斐あって、全員結構良い成績を収めた。教材は、確か、カポツサの「若き医師の頃」という

小説だったかと記憶している……。それにしても担当の浜中教授は一流の毒舌家であったが、しかし講義は大変面白かった。試験特に後期試験後の休みは長く一番楽しかった。読書、旅行、アルバイト、コンパ、帰省等人生で一番良き時代であった。

「同級会交流録」

昭和47年卒同期会幹事 須藤 富平

卒業してから、もう既に三十二年経過してしまつた。五十五歳にもなつたら皆も大分変わったらうな！と云う事だ、久しぶりに同期の集まりを計画した。今度で三回目の企画である。全員に往復葉書きで案内を出したが、仲々返事がこない。幹事二人で個別に督促したりしてやっと二十七日出席という事になった。当日、一月二十四日は幹事なので集合時間の一時前に会場の銀座三ツ丁キヨー桃杏楼に入った。すると、十分程して一寸早目だけ良いですか」との声。もう一人の幹事の田坂君の声ではない。「どっぞどうぞ、構わないからお入りになって、しばらく休んでいてください。」と返し、顔を上げると、入って来た男性が、しばらく繁々と私の顔を見ていて、「失礼ですが、どなたでしたか?」と聞いてくる。「えっ高野さん、そりやないよ冷たいな。須藤だよ! 須藤!」と云うのがやっと。最初に来てくれた組・秦ゼミの高野政伸君は、私を覚えていてくれたのか。頭が真白で大分薄くなりかけた彼と、学生時代に比べ体重が30kgも増える程太つた私との何とも笑えない会話で同期会は始まつたのである。三時の開式まで三々五々集まる

と、やはり最初の我々と同じで自己紹介と思ひ出話が始まるが、変つたなあ」と云う声の多い事。とりあ

言わば、疾風勁草の体質を身に付けることができた四年間であったと考へ感謝している次第である。



蒼玄寮 昭和37年

編集後記

心筋梗塞で急逝された中野恵さん、経和会や同窓会連合会と同様に、社会でも数えきれない業績を積み重ねてこられました。OBとなられた会社の有名なコマーシャルを振り、「間坂為」というペンネームでも大変な活躍をなされていたことをご存知の方も少なくないと思われまふ。その中野さんが、まさか突然お亡くなりになられるとは、一体誰が予想できたでしょうか。悔しくて辛くて悲しくてたまりません。今皆様がお手にとられている「経和会会報」も中野さんが中心となつて編集を切り盛りしてこられました。「誰かが引き継がなければ」ということで、経験や知識そして能力も不足している私にお声が掛かりました。不幸中の幸いとはこのこと。同窓の皆様や田隅新学長を始め小池専務理事や事務局の皆様そして望月印刷様に支えて戴き、漸く第七号が完成しました。今後とも微力を傾注しますので、何卒宜しくお願い致します。

参考

卒業時	17名
出席者	5名
欠席の返事あつた者	26名
返事こなかった者	43名
住所不明連絡とれず	54名
	29名
以上	

清水建設(株)開発企画部勤務
経済学部経済学科